

平成30年度 唐津市立加唐小中学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと魅力を発信・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成 —地域の特性を生かした主体的・対話的取り組みを通して—	①学力の定着と向上 ②「生きる力」の育成 ③キャリア教育の推進 ④地域とともにある学校づくり ⑤業務改善・教職員の働き方改革の推進

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価							
①学力の定着と向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の充実	・実践的コミュニケーション能力を養うため、テレビ会議システムを活用した交流授業やスピーチタイムを実践する。 ・校内研究のテーマに沿った研究授業と授業研究会を全ての教員が年間1回以上行う。	・他校との交流授業や合同スピーチタイムの実践のため、年度初めや長期休業期間を活用して他校との調整や計画の見直しに努める。 ・全教員が「実践的コミュニケーション能力」の育成を目指した指導を行えるよう、校内研究会を中心に教員間での共通理解を図る。 ・積極的な講師招聘を行うなどして、実践力の向上を図る。	A	・実践的コミュニケーション能力育成のため、テレビ会議システムを活用した交流授業やスピーチタイムを数多く実践することができた。特に、小川小学校と高島小学校とは様々な機会に交流を実施し、積極的に自分の考えを発表することができるようになった。 ・校内研究のテーマに沿った研究授業と授業研究会を全ての教員が年間1回以上行うことができ、実践力の向上に努めることができた。	・年間カリキュラムの中に、「実践的コミュニケーション能力の育成」を明確に位置付けることで、さらに児童生徒の力を育成していく。 ・効果的な研究の推進を図るため、全教員が共通理解を持つことができるような研究組織を作り、運営していくようにする。
			・児童生徒対象のアンケートを実施し、「授業が楽しい」、「授業が分かる」、「学習したことが役に立つ」の見聞で3.3/4.0ポイントを上回るようにする。 ・教員対象のアンケートを実施し、「授業において、児童生徒の学力向上のために指導方法の工夫・改善を図っているか」の設問で3.3/4.0ポイントを上回るようにする。	・極小規模校のメリットを生かして個別の指導計画を作成・活用し、個の能力に応じたきめ細かな指導を行う。 ・学習目標の掲示や学習の振り返りを行うなど、唐津市学力向上アクションプランを基本とした授業づくりを徹底して行う。	A	・児童生徒対象のアンケートについては、全ての教科で3.5/4.0ポイント以上であり、高い学習意欲が見られた。 ・教員対象のアンケートでも、左記の項目については3.6/4.0ポイントであり、指導方法の工夫・改善に取り組んでいるといえる。 ・児童生徒一人一人に応じた目標を設定することで、達成を目指した実践に取り組むことができた。	・来年度も児童生徒一人一人に応じた目標を設定することで、実態に合わせた学習指導ができるようになる。 ・教員間で児童生徒の学習状況を報告することで、適切な学習指導ができるようになる。
	●学力向上	基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	・12月実施の県調査(小4・5・中1)の全ての教科で、県平均を上回るようにする。 ・12月実施のCRTにおいて、小2で全国平均を上回るようにする。 ・教員対象のアンケートを実施し、「普段の授業において、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図っている」、「思考力、判断力、表現力を育成するために、書く活動や説明する活動を位置付けて、指導をしている」の設問で3.3/4.0を上回るようにする。	・プリント学習等の復習的な課題を課すことで、学習した内容の確実な定着を図るようになる。 ・毎時間の小テストや単元の終わりに確認テストを実施するなどして、学習の定着を把握し、必要に応じて補充学習を実施する。 ・条件を踏まえて、自分の考えを書く活動や根拠を明らかにしながら、筋道立てて伝える活動を位置付けた授業を工夫し、思考・判断したことを表現できる場を設定し、指導を行う。	A	・12月実施の県調査(小4・5・中1)では、県平均を上回る教科もあったが、平均に届かない教科もあった。 ・小2が12月に実施したCRTにおいて、全国平均を上回ることができた。 ・教員対象のアンケートでは、左記の2項目とも3.3/4.0ポイント以上となっており、書く活動や説明する活動を授業の中に位置付けながら学習指導をしているといえる。 ・毎時間の小テストや単元終わりの確認テスト、さらに家庭学習についてのアンケートでも、3.3/4.0ポイントを上回っており、学習内容の定着に係る取組を学校全体として行っているといえる。	・自分の考えを書く活動や筋道立てて伝える活動については、共に思考力・判断力・表現力、さらには研究内容である「実践的コミュニケーション能力」の育成に効果的であるため、引き続き実践していく。 ・教員対象のアンケートの結果、「家庭学習の仕方などを児童生徒に理解させ、習慣の定着を図っている」については2.9/4.0ポイントであったため、家庭学習の仕方についても教員間で共通理解を図り、児童生徒の実態を把握し、指導していくことが必要である。
			・教員対象のアンケートを実施し、「普段から言語能力を向上させるための手立てをとった指導を行っている」の設問で3.3/4.0ポイントを上回るようにする。 ・話し手の考えを聞き取り、それに対する自分の考えを明確に述べることができるようにする。	・集会活動や他校とのテレビ会議システム交流などを設定し、言語活動を行う機会を設ける。 ・話を深めることができるような進行方法を考え、活発な意見交流ができるように支援する。 ・スピーチタイムを行い、質疑応答する時間等を設けることで、話す力、聴く力、質問する力、話し合う力の育成を図る。	B	・教員対象のアンケート結果が目標に到達しており、また、児童生徒自身もアンケート結果から、集会活動やスピーチタイム、他校との交流活動を通して、話すことと聞くことができていると感じている。 ・質問する力、話し合う力の育成のための支援が不十分だったため、活発な意見交流まではいかなかった。	・スピーチタイムについて、校内研究、文化部、国語科で連携して検討し、全職員でスピーチの指導や進め方等について共通理解する。 ・活発な意見交流の場面の動画を児童生徒に提示し、児童生徒自身が、「質問する力」や「話し合う力」を伸ばすイメージを持つことができるようにする。
②「生きる力」の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育	○教育の質の向上にむけたICT活用教育の実施	ICT機器を活用した授業の工夫・改善	・ICT機器の使い方等の講習を行い、ICT機器を活用した授業がスムーズに行われるよう努める。 ・デジタル教科書が導入されている教科は、原則として、毎時間活用し、児童生徒が電子黒板等を主体的に活用することができるような授業を工夫する。	・授業におけるICT機器の活用についての職員研修を計画的に行い、職員の情報活用能力の向上を図る。 ・ICTを活用した授業実践を通して指導法の工夫・改善を図る。 ・デジタル教科書だけでなく、自作のコンテンツも積極的に開発して授業の充実を図る。	A	・電子黒板を用いた授業については、全ての教師が行っている。 ・テレビ会議システムを活用した授業については、ほぼ毎週小学校が行った。中学校では、テレビ会議システムを使用した授業は多くなかったが、自作教材を使っている授業が多く行われた。 ・パソコン機器を使用する授業を理科において行った。小学生ではローマ字入力等の指導も合わせて行った。	・ICT機器を活用した授業を全ての教師が実施しようと努めており、自作教材を全ての授業において使用している教科もある。引き続き、ICT機器を使用した授業を行う意識を高く維持したい。 ・教師だけでなく、児童生徒がICT機器を扱えるようになることが理想であるため、意図的にパソコン機器を使用する授業を設定していく。
			・各学級において、学級担任は年に1回以上、道徳の授業公開を行う。 ・道徳の授業だけでなく、他教科においても道徳的な内容に触れ、道徳教育を充実させる。 ・児童生徒対象のアンケートを実施し、「周囲に対して思いやりをもって接することができる」の設問について、全ての児童生徒が肯定的に回答する。 ・学期に1回は、スクールカウンセラーと担任による授業を実施し、自己理解、他者理解を内容としたものを含め、よりよい人間関係を築く能力を付けさせる。	・道徳の授業については、できるだけ教員同士も相互に参観するように努め、互いに授業力の向上を図ることができるようにする。 ・道徳の時間を要(かなめ)としながら、各教科、特別活動など教育課程全般で道徳教育の推進を図ることができるように教員間の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラーによる、教育相談の内容とも関連させながら、児童生徒の実態に合致した内容を設定して、授業を実施する。 ・毎週1時間の道徳の時間を大切に、児童生徒と共に考えを共有する時間を持つ。	A	・道徳の授業については、教員同士相互参観の機会が増え、互いに授業力の向上を図ることができた。 ・道徳の時間を要(かなめ)としながら、各教科、特別活動など教育課程全般で道徳教育の推進を図ることができるように教員間の共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラーによる、教育相談の内容とも関連させながら、児童生徒の実態に合致した内容を設定して、授業を実施することができた。 ・毎週1時間の道徳の時間を大切に、児童生徒と共に考えを共有することができた。	・学級担任は年に1回以上、道徳の授業公開を行うことができ、教員同士相互参観の機会が増え、互いに授業力の向上を図ることができたので今後も継続したい。 ・道徳の時間を要(かなめ)としながら、各教科、特別活動など教育課程全般で道徳教育の推進を図ることができるように教員間の共通理解をさらに深めたい。 ・スクールカウンセラーとの連携を更に深め、児童生徒の実態に合致した内容を設定して、授業を実施したい。 ・今後も毎週1時間の道徳の時間を大切に、児童生徒の心の成長を促したい。

活動	●いじめ問題への対応	児童生徒及び教職員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「命の教育」についての授業を年に1回以上行い、自他共に命を大切に児童生徒を育てる。 人権・同和教育の視点に立って、小中合同で「ほんわかタイム」(人権タイム)を年間5回実施し、児童生徒の人権意識の高揚を図る。 講師を招聘するなどして、人権・同和教育の授業実践に関する職員研修や授業研究会を行い、各教科、道徳、学級活動などと関連させながら「心を耕す」取組へと広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい道徳などの機会をとらえ、道徳を中心に心の教育、命の教育を実践する。 「ほんわかタイム」においては、講話だけでなく、資料提示の工夫や体験型活動の導入などの工夫を行い、児童生徒の人権に対する関心を高め、意識の高揚につなげる。 教職員の人権意識向上を目的とした研修会を複数回行い、児童・生徒、地域住民も対象にした講演会を開催する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい道徳などの機会をとらえ、道徳を中心に心の教育、命の教育を実践することができた。 「ほんわかタイム」においては、担当の先生方がパワーポイント等を使用し資料の工夫を行い、児童生徒の人権に対する関心を高めることができた。 教職員の人権意識向上を目的とした研修会を複数回行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、ふれあい道徳などの機会をとらえ、道徳を中心に心の教育、命の教育の樹実を図りたい。 「ほんわかタイム」については、今後も可能な限り実施したい。 今後も教職員の人権意識向上を目的とした研修会を適宜実施したい。
	●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣・食習慣の改善や自己管理能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで「週3日以上、15分程度の運動を継続した」と回答する児童・生徒を100%にする。 アンケートで「帰宅の際や食事の前に手を洗う」と回答する児童・生徒を100%にする。 食の大切さを理解し、自分の健康を保つために必要な食べ物を選ぶことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みは、できるだけ多くの教職員が関わり、児童生徒と運動場や体育館で運動するように奨励する。 年間を通じて手洗い・うがいの大切さを啓発し、正しい手洗いの仕方について保健指導を行う。 給食についての反省会を行い、食生活の見直しをさせ、食の大切さを伝えていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日には「みんなで遊ぼうの日」を設け、児童生徒、教職員ともに遊び、体を動かしており、それ以外の曜日でもよく動き回って遊んでいる。 マラソン大会の練習に継続して取り組み、持久力を高めることができた。 アンケートの結果、「帰宅の際や食事の前に手を洗う」と回答した児童生徒は100%であり、衛生習慣を身に付けることができた。 リクエスト献立を取り入れたり、毎週金曜日に給食の反省会を行ったりすることで、食についての意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みは、よく体を動かして遊んでいる様子が見られたので、今後も休み時間の遊びを通しての運動を促していく。 体育の授業の前半で3分間程度の走りを取り入れたのは良かったので、継続していきたい。 手洗いの習慣は身につけているので、正しい手洗いの方法について保健指導を充実させ、児童生徒の健康意識を高めたい。 リクエスト献立を継続し、栄養バランスを考えて食べ物を選ぶことができるように、栄養教諭と連携しながら食育指導を行っていきたい。

③キャリア教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育の推進	役割意識の向上と自主的に働く意識の定着	<ul style="list-style-type: none"> 掃除や給食の当番や係活動を通して、自分が学校生活に役立っていることに気づかせて、自己有用感を育て、さらに楽しく自分の責任を持つことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除や給食の配膳の方法を理解させるとともに、自分でもできることを積極的にこなせることを考えて実行に移すことができるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 給食の当番や後片づけなど、自分の役割を意識して責任感をもって働くことができた。 児童会活動や学校行事にも積極的に参加し、与えられた役割を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や学校行事において一人一役という形で役割を与えて、一生懸命取り組ませることで、児童が責任感や達成感、成就感を味わえることができるようにすることで児童が自己有用感をもつようにしたい。
		「夢」と「望ましい将来の自分像」の具現化	<ul style="list-style-type: none"> 職業講話や外部講師の話を聞く機会に、生徒対象にアンケートを実施し、「参考になったか」「将来のことについて考える機会となったか」の設問で、全ての生徒が、肯定的な回答をするようにする。 生徒対象のアンケートを実施し、「将来の夢ややりたいことがある」「そのために、今やるべきことは何かを考え、実践している」の設問で、全ての生徒が肯定的な回答をするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、話を聞いてみたい職種等についてのアンケートを実施し、生徒の興味・関心が高まるような職業講話を企画する。 特別非常勤講師の利用や外部講師の話を聞くことで、様々な人との関わりを通して、働く意義や喜びを感じ取らせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢やなりた職業などについて、アンケートを実施し、調べ学習をした。 島留学1年目なので、島民の方に職業のことをインタビューして、島の生活を知ることができた。そのため、職業講話は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が1名で、来年度は2年生になるので、職場体験学習を行う。 他県からの島留学生生なので、本県や他県の高校進学の情報調べさせ、なりた職業にあった高校選びをしていきたい。

④地域とともにある学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針の周知	学校教育目標、学校経営ビジョン、本年度教育の重点の周知と実践化	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標、学校経営ビジョンの教職員、児童生徒、保護者への周知度を100%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りや学校ホームページでの広報活動や、育友会総会、保護者懇談会などを活用して、周知を図る。 学校評価研修会において、実践化の進捗状況や節目の振り返りを丁寧に行い、その後の各部会議につなげることでより実践化が図れるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標については、学校だよりやホームページでの広報活動や育友会総会、学校評議員会に等さまざまな場面で周知を図ったが、保護者及び教職員の認知度は100%に到達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも教職員の認知度は100%であるべきである。保護者や島の方に、職員が学校教育目標を説明できるようにするためには、職員の学校運営に対する参画意識をより高めていく必要がある。
		学校と地域の理想的な関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回以上は、保護者や島民に公開する授業参観や学校行事を企画する。 保護者、島民を含む年間の来校者を300名以上とする。 武蔵王生誕祭、島内除草作業などの島内行事に、教職員は積極的に参加し、島民としての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や学校行事を周知し、多くの方が学校に来校できるようにする。 教職員は、島民の一員としての自覚をもって、積極的に島内行事に参加するように心掛ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開や運動会、島内除草作業、プール清掃活動など、保護者や地域の方に協力いただき学校行事を行い、開かれた学校づくりを実施できている。 本校の行事だけでなく、松島分校にも出向き、除草作業や校舎清掃を行った。 島民レクレーションを2月に実施することができ、島民の方々と親睦を深めることができた。 全職員が島民としての自覚を持ち、積極的に島内行事に参加するように心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校職員だけでは、学校行事を行う事は出来ない。育友会などの会合で、学校の思いを伝えたり、地域の方々の意見を聞いたりして、協働で子どもたちのために行事を行ってほしい。児童生徒数の減少に見合った行事計画・運営を行っていかねばならない。 学校への協力をお願いするとともに、地域の行事には、学校職員も積極的に参加するように心がけていきたい。
	○開かれた学校づくり	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りを必要に応じて発行し、島内全戸に配布することで、学校の様子を伝えていく。 学校ホームページの更新を小まめに行い、且つホームページのメニュー等を精選していくことで、閲覧者が得たい情報を分かりやすく伝えていくよう努力する。 小中学校それぞれで毎週必ず学級だよりもしくは学年便りを発行し、保護者に対して学校での様子や担任の思いを伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りを島内全戸に配布する。 分校が休校のため、迅速に配布することができないが、定期的に松島に職員が渡り、全戸に学校便りを配布し、学校の様子を知らせる。 ホームページでの情報発信を月に1度は行っていく。 担任が発行する通信を週に一度は発行する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを毎月1回発行し、島内全戸に配布することで、学校の様子を伝えることができた。 学校ホームページの更新を担当者が小まめに行い、常に最新の情報を発信することができた。 小中学校の各担任は、学級だよりを発行し、保護者に対して、学校の様子や担任の思いを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校便りや、学級通信の発行を通して、島民や保護者に学校の様子を伝えていく。島外の人に対しては、ホームページの更新を担当者が中心となって積極的に行い、閲覧数を今年度よりも増やしていく。

⑤業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	規範意識、モラルの高揚	<ul style="list-style-type: none"> 会議や事務の効率化を図り、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保する。 定時退勤日を設定し、徹底することで働き方改革の推進を図る。 職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有化を行う。 教員一人一人が研修に努め、指導力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議時間の設定や資料の事前配布を確実に進行。 自分の仕事だけでなく、他の職員への協力を全職員が心がけるよう、声かけを行う。 職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有化を行う。 県内外で行われている様々な研修を紹介し、指導力向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等資料のペーパーレス化を行い、事務の効率化を図ることができた。 職員会議前に運営委員会を設定することで、職員会議の円滑な進行に努めた。 定時退勤日を設定し、徹底することで、業務を計画的に行うことができた。 県内外で行われている様々な研修会を紹介し、1人1回以上参加することで、指導力向上を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度以上に会議資料等の事前配布等に心がけ、事務の効率化を図っていく。 定時退勤日の周知徹底を図り、計画的な業務の遂行ができるようにする。 様々な研修会に積極的に参加し、教員一人一人の指導力向上を図っていく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

- ◇ 今年度も保護者や島民の方々の理解や協力を得ながら充実した教育活動を行うことができた。
- ◇ 極少人数の良さを生かし個に応じた授業を実践していくなかで学力も伸びてきている。
- ◇ 全ての教員が研究授業と授業研究会を年間1回以上行うことができ、指導力の向上に努めることができた。
- ◇ 実践的コミュニケーション能力育成のため、テレビ会議システムを活用した交流授業やスピーチタイムを数多く実践することができた。スピーチタイムでは運営も児童生徒が行い、発達段階に応じた「話す力」、「聞く力」、「質問する力」、「話し合う力」をつけることができた。
- ◇ 日常的に児童生徒の心情や行動の様子についての情報交換し共通理解することに努め、必要に応じて協議を行うことで、大きな問題となるような事案は起こらなかった。
- ◇ 来年度は小学校4名、中学校2名になり、今年度以上に学校行事の企画・運営に工夫が必要となってくる。これまで以上に職員間のコミュニケーションを図り、学校運営にあたっていかなければならない。また、研究発表会に向けて、より充実した校内研究が求められる。また、保護者や島民の理解と協力を得ながら、より充実した教育活動を行っていかねばならない。

●は共通評価項目、○は独自評価項目